

I 業務運営・財務内容等の状況
 (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
 ① 評価の充実に関する目標

中期 目 標	○ 大学の活動全般について、自己点検・評価、外部評価を充実させ、教育研究の質の向上及び業務運営の改善を図る。		
	中期計画	年度計画	進捗 状況
	【32-1】 教育研究活動及び管理運営の状況について、定期的に多面的な自己点検・評価、外部評価を実施し、評価結果を業務改善に活用するとともに、その内容を学内外に公表する。	【32-1-1】 大学評価室において、「中期目標・中期計画進捗管理システム」を運用し、中期目標・中期計画、年度計画の一元管理を実施するとともに、地域貢献事業に関する評価、国際化推進事業に関する評価など外部有識者を交えて行う評価の評価結果等を業務改善に活用する。	IV
		【32-1-2】 第2期中期目標期間に係る国立大学法人評価を受審する。	III
		【32-1-3】 平成26年度に受審した大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価で明らかになった課題等に対する対応状況をホームページ等により学内外に公表する。	III

I 業務運営・財務内容等の状況
 (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
 ② 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標	○ 教育研究活動の情報を積極的に発信し、大学の知名度を高める。
------	---------------------------------

中期計画	年度計画	進捗状況
【33-1】 学内の教育研究成果を迅速に把握・発信できる体制を整備し、広報戦略に基づき、発信する情報内容を充実させるとともに、多様な広報媒体により、多面的な広報活動を行う。	【33-1-1】 教育研究成果を迅速に把握・発信できる体制の整備に向け、リニューアルしたホームページの運用方針及び体制を定める。また、プレスリリースの流れや作成方法などのマニュアルを作成し周知する。	Ⅲ
	【33-1-2】 情報発信内容を充実させるため、学生と教職員による公式広報チーム等と連携して情報を収集し、ホームページ、SNS (Facebook, Twitter, LINE)を活用し情報を発信する。	Ⅳ

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する特記事項等

○定量的指標による事業の進捗管理の実施

「中期目標・中期計画進捗管理システム」を運用し、中期目標・中期計画及び年度計画の進捗管理を年度計画通り実施したが、それに加えて、中期計画や年度計画、各種補助金事業、概算要求に係る評価指標等において、達成すべき様々な定量的目標を掲げていることから、これらをKPI (Key Performance Indicator) として、学長のもと、一元的に進捗状況をフォローし、各事業実施のマネジメントを行う仕組みを新たに構築し、進捗管理を行った。

本学が掲げる9領域約180個の定量的指標について、平成28年10月と平成29年1月に学長直下の大学評価室が一元的に学内各部局よりデータを収集し、その目標達成の見込みについて分析を行った。それを踏まえ、学長をトップとし大学の運営戦略を企画・立案する大学戦略キャビネットにおいて、全体的な状況を学内で共有するとともに、進捗がおもわしくないものについては、現状を聴取のうえ、対応の方向性を決定し、事業実施担当部局に指示を行った。なお、平成29年6月には平成28年度の総括を行う予定である。

この進捗管理の仕組みにより、例えば、短期の留学生派遣数及び学生のTOEICスコアの動向などを踏まえ、学生の英語力をさらに向上させ、また、グローバルな視点を身につけるための短期留学先の新規開拓が実現するなど、大学の客観的な状況を学長がつぶさに把握してトップマネジメントによるPDCAサイクルを通じた事業改善を行った。

< 関連計画：【32-1-1】 >

○教育研究成果の的確かつ積極的な発信

年度計画通り学生広報チーム「K-NOSBY」が中心となり、大学公式SNSを活用して幅広い層への大学情報を発信し利用者より好評を得たが、それに加え、より利用者のニーズに合わせた情報発信をするために過去投稿で閲覧者に好まれたテーマなどを分析し投稿内容を精査し発信することで、平均リアクション数(1投稿当たりのいいね!の数)は、平成27年度の128件から220件と1.7倍となった。

教育研究成果等の情報発信力を強化するため、報道機関等への情報発信手順を標準化・明確化し、必要な情報や留意点を整理したプレスリリースマニュアルを作成し、学内周知を行った。教員が自身の教育研究成果をよりの確かつ容易に発信することができるようになり、本学からのプレスリリース数は平成27年度の29件から44件に大幅に増加し、本学の積極的な教育研究情報の発信につながった。

< 関連計画：【33-1-1】 【33-1-2】 >

○第3者評価を活用した業務改善

本学では、平成26年度に大学評価・学位授与機構(現大学改革支援・学位授与機構)による、機関別認証評価及び選択評価事項B「地域貢献活動の状況」と選択評価事項C「教育の国際化の状況」を受審したが、その際の自己評価の過程において明らかになった課題及び評価結果において課題とされた事項について、受審を契機として改善に取り組むことを決定し、各担当部局において対応方針を策定している。

平成28年度にはその対応策に基づいた改善がなされているか、大学評価室においてフォローアップ調査を行い、シラバスの内容改善、インターンシップの充実、学修成果の把握、ファカルティ・ディベロップメント活動の充実、留学生への意見聴取や支援、教員公募の国際公募への切り替えなど16の課題すべてにつ

いて対応・改善がなされていることを確認し、当該状況を取り纏め本学ホームページで公表した。

< 関連計画：【32-1-3】 >